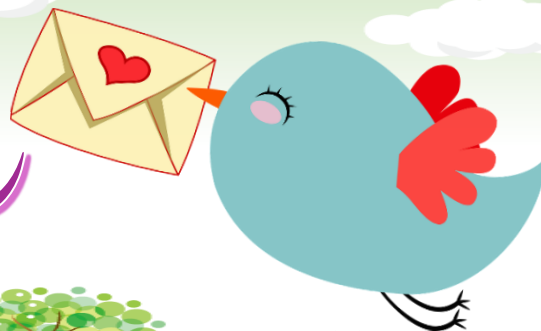


はっけん



令和7年4月号

URL: <http://www.kyushuren.org/>



今回は各県の耳の日記念を中心の記事となっています。
さあ～どんな内容でしょう。最後まで読んでくださいね。

大分県

耳の日集会 in なかつ

2025. 3. 2(日) 中津文化会館

冷たい雨が降り続く天気でしたが、県下各地から460人がこの集会に集まってきました。コロナ禍を経ていろんな行事が途絶えたり、規模縮小されたりして仲間同士が会う機会が少なくなってきました。そんな中で開かれた「耳の日集会」で懐かしい人との再会に思わず笑みが浮かぶ、手を握りあう、手話の花が咲く、そんな光景が会場内のあちらこちらで見られました。

集会では、長年ろう者を雇用してきた企業や手話通訳活動者に感謝状を贈ったり、協会の永年会員を表彰したりしました。

来賓祝辞では、手話で自己紹介するのがルーティンになったようで、聴者の中にどんどん手話が広がって来たと感じました。



アトラクションでは、地元中津市在住の吉田さん親子(ろう)がパントマイムを演じて会場を沸かせました。

客席からも登壇いただき笑いの渦が出来ました。

また、午後からは「目で聴くテレビ」でおなじみの重田一輝さん村上信次さんのトークショー「手話くらべ」で大いに盛り上がりしました。大分にちなんだクイズも準備していただき、楽しいひと時となりました。

来年度は、県南佐伯市で開催されるこの「耳の日集会」、再会を約して参加者は帰路につきました。

(大分県通信員 川野順二)



第65回 耳の日記念の集い

令和7年3月16日（日）、佐賀市の東与賀文化ホールにて、第65回耳の日記念の集いが開催されました。

まず、「テレビの裏話」のテーマで江副悟史氏の講演。昨年は、男組としてオムニバス芝居を見せて頂きました。今回は、今まで手話指導や手話監修で携わってこられたテレビ番組の裏話を、楽しくお話下さいました。最近テレビでよく目にする、ACジャパンのCMや、NHKのドラマについての話など。今をときめく有名人との秘話がたくさんで、「私も会ってみたいな（笑）」と思いました。



東京から来られた江副 悟史氏
『テレビの裏話』のお話をして下さいました。



会場の様子。お二人の挨拶

次にアトラクションで、穂田誠氏と酒井亮氏による手話落語。演目「ももたろう」「竹取物語」など、誰もが知っている昔話と思いきや、オリジナルにアレンジされていて、会場からは笑い声が聞こえていました。表情や動きでの表現が本当に素晴らしく、感動しました。お化粧をする時の仕草や表情は、真似できないなと思いながら見ていました。

その後は、二人への質問コーナーがあり、お二人が手話落語を始めたきっかけや、熊本ろう学校時代のお話など、色々な質問に答えて下さっていました。人前で表情豊かに、体全体を使ってお話ができるって、本当に凄いと思います。

初めて参加された方がいらっしゃいましたが、「楽しかった」「勉強になった」などの声が聞かれました。
(小城市手話サークル 安藤・光石)



穂田 誠氏



酒井 亮氏



お二人のトークショー

福岡県：『サークル学習会～のぞいてみよう隣の例会～』

2024年12月14日(土)10:00～ クローバープラザにて
肌寒い天気の中での参加でした。

第一担当「小郡手話の会」

(1)

積み木ゲーム：手本となる人が積み木(形・色バラバラ)を隠した中で積み上げていき、3人の人達が手本となる積み木と同じ形にする、というゲームでした。

手本となる人が手話と形、方向を無言で表すのですが、なぜか同じ形・向きにするのが難しい。

9人の人がしましたが、完璧に同じという人は1, 2人ぐらいでした。なかなか通じないのだなあ～と思いました。

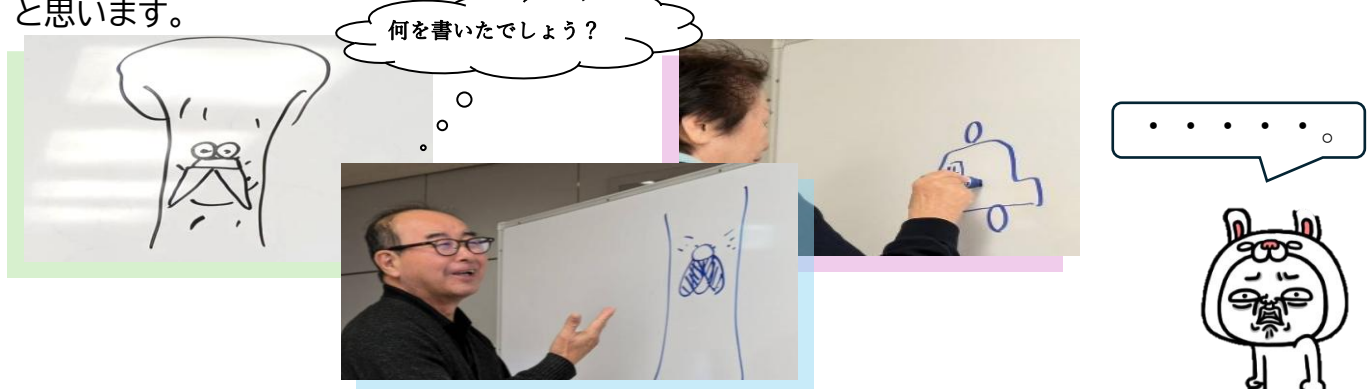
※道具などは100均にもあるという事なので、サークルでもしたいと思いました。

(2)

3ヒントゲーム：食べ物・乗り物・生き物・その他と準備しヒントは3つ。手話と身振りのみで表しそれを2人が読み取り絵を描くというゲームでした。

ヒントは分かるのですが、皆さん絵がお上手?!なかなかの絵心のある方ばかりでした。最後に自分があたったのですが、まあ～ビックリ。わからない。

手話の会の方に「え～なに?なに?」と聞くと「遊園地で見晴らしがよくて…」と教えてもらい「あ～!」浮かんだ言葉はメリーゴーランド。(本当は観覧車です)でもイメージはできていたので絵は描いたのですが「なんじゃこの絵は?」という気持ちでした。これもサークルでしてみよう、と思いました。みんなの絵心を見てみようと思います。



第二担当「糸島手話の会」

(1)県章クイズ：各県の県章を出して3つの写真ヒントをだし、県を当てるというクイズです。

各チームに分かれてのゲームでしたが、私のチームにろうあ者が一人いたのですが15問中5問ヒントなしで県を当ててくれました!!これにはビックリです!!

手話の会の人も1つ目の写真ヒントでほとんど当てていました。

九州でも分からないのに全国になると大変でした。しかし、写真ヒントで分かると嬉しかったです。

2つの手話の会の皆さんありがとうございました。準備が大変だったと思います。

でもやっぱり～のぞいてみよう隣の例会～は地域性がでてとても勉強になります。そして楽しかったです。



(筑前手話の会 野寄千恵)

長崎県：第54回耳の日集会 in ながさき

江副悟史氏による記念講演テーマ『日本手話の極意』の感想

3月2日、小雨降る中、長与町民文化ホールにて第54回耳の日集会が開かれました。外の薄暗さとは一転、会場内は、皆さん久しぶりの出会いを楽しみ、手話の花をたくさん咲かせ盛り上がりっていました。

そんな中、江副悟史さんの講演『日本手話の極意』を拝聴させていただきました。内容は、江副さんの手話に対する鋭い洞察と、実践的アドバイスのある、学びの多いものでした。そして、江副さんが大切にされている8つの極意は、手話勉強中の私にもわかりやすく、引き込まれる内容でした。

8つの極意のうち、いくつか簡単にご紹介させていただきますと、①文章に強弱をつける事、②文章の「、」を「。」に変える事、③意味の無い接続詞を減らす事、では、聾者の文化を理解し、手話の無駄を省き、より明確に情報を伝えるための工夫を学ぶ事が出来ました。

次に、⑤手話のモデルを多く知る事では、さまざまな世代・地域の聾者と出会うことで、手話の幅を広げる必要性についてお話しされました。様々な聾者(目標1000人)と出会い、色々な手話を自分の中に貯めていき、ここぞ！という時にぴったりの手話を使うのだそうです。

最後に、⑧自己満足でやらない事では、これは手話に限った事ではありませんが、周りの意見に素直に耳を傾ける必要性について改めて認識させられました。

これらの極意からは、相手の事を考えて最大のパフォーマンスをする江副さんのプロフェッショナルな部分の一部垣間見る事が出来たと思います。そして、江副さんのユーモアを交えた説明は、手話を学ぶことの楽しさをあらためて教えてくれました。この極意を胸に、引き続き手話の勉強を頑張りたいと思います。

なお、講演の後は、『紫雲エイサー』の演舞で大いに盛り上がりました。『はいさいおじさん』など、テンポに合わせてみんなでダンスを踊る事で一体感を味わえたのではないのでしょうか？

(長崎手話サークル 高橋 美香)



熊本県：県北支部 ” 耳の日ふれあい ” 25 開催

3月9日(日) 10:15～13:45 まで荒尾ゆめタウンシティモールで開催されました。

県北支部と3サークル(荒尾、鹿本、玉名)が持ち回りで開催しており今年は荒尾でした。

ゆめタウン内の中央部ステージで、ミニ手話コーナーや手話クイズ、

手話落語、各サークルは手話劇、手話歌を発表しました。

観客はほぼ関係者だけではないかと思っていましたが、想像以上に

足を止めて観ている人も多く、準備していた椅子も追加したほどでした。

ろう協・サークル紹介・聴覚障がいについて理解を求める資料も配布しました。

身近な手話を教えたりクイズを出題したり、子どもさんも一緒に楽しめるよう

な内容で、落語の演目は「化粧」で手話を知らない人でも分かるような表情の

豊かさに大きな拍手が送られていました。

手話劇は誰もが知っている昔ばなしで、皆さんが一生懸命練習されたことが伝わってきて楽しいものでした。

手話歌は表現方法を説明した後に発表したのですが、一緒に手を動かしている人が思った以上に多くて嬉しく思いました。

例年、施設内の開催が多く関係者が殆どの状況でしたが、今回は商業施設のステージで3時間半にわたっての開催で、聴こえないことや手話について知ってもらうきっかけになったのではないかと思います。

最後にはデフリンピックの告知も行い、ステージ発表に向けての練習で色々な意見を出し合ったことも貴重な時間になりました。また、3地区が久々に集まり交流出来たことも良かったです。

(玉名わかぎ 勝木美智代)



福岡県：「第54回福岡県ろうあ者耳の日記念集会」

第54回福岡県ろうあ者耳の日記念集会

主催：社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会 主管：福岡県聴覚障害者団体連合会

2025年3月9日(日)13:00～ クローバープラザ大ホール

男組でおなじみの板橋みつおさんと今井彰人さんのコントとトークショーということで期待に胸を膨らませて参加しました。

ろう者、聴者を問わず県下いろいろな地域の方との再会も嬉しく手話でつながることはやはり素敵だと感じました。

コントでは、「それは誇張しすぎでしょ！」と突っ込みたくなることもありましたが、ろう文化や手話言語を丁寧に残していく大切さや教訓を感じました。手話を学ぶということは単語を学ぶだけでは不十分なので、学習をはじめたばかりの人にもぜひ見てほしかったです。

後半のトークでは、出会った頃のことから、お互いどう思っているか。力を注いでいる活動のことなど幅広くて、お二人の魅力が伝わってくるものでした。

今回は読み取り通訳のおかげで、ちょっと目を離しても分からなくなることはありませんでした。逆に、読み取り通訳がないとしたら、どれだけ楽しめるだろうか。楽しんでみたい(楽しめるようになりたい)と感じながら、お二人の手話トークに魅せられたあっという間の3時間でした。



大牟田手話の会「ありあけ」
(赤嶺 寛徳)



鹿児島県：県手連一日研修会

2月16日(日)に鴨池の県社会福祉会館で県手連一日研修会が開かれ、鹿屋からは理事の他にサークル2人、聴協2人が参加しました。

全体では県内のサークル会員・聴協会員が離島も含め、およそ100名の参加がありました。

講師は長崎ろうあ協会の荒木宏彦氏をお招きし、聞こえない義理のお母様との関わりについて講演いただきました。

午前中は奄美のことや、お義母様のご様子のお話を聴き、午後からはその内容を受けてグループワークをしました。

奄美のお義母様はろう学校に通った経験がなく、独自の手話表現でコミュニケーションをとられるのですが、とても豊かで言いたいことが、きちんと伝わる表現でした。

そのことを荒木氏は十人十色をもじって【十手十色】という言葉にされていました。

正しい手話単語を学びおぼえ使うことはもちろん大切ですが、まずは「伝えたい」という気持ちを持って、手を動かすことが更に重要だと感じました。

グループワークでは地域の違う会員と聴協会員が、意見交換をしました。

互いのサークルの良い所や改善したいことなどを発表し、最後に各グループで出た意見の発表がありました。「サークル会員の高齢化」・「役員のなりて不足」・「例会の定番化」……など、大変なのはどのサークルも同じだと思いました。

全体的に盛会裏に終わった一日研修会でしたが、奄美はリモートで繋いだのですが上手く繋ぐ事が、できなかったことが心残りです。

年々、少しずつサークル会員の参加者が増えてきていて、嬉しいです。イベントがある際にはお声がけをします。ご都合が合う方はぜひご参加いただき、一緒に交流を深めていけたらより嬉しいです。



(鹿屋手話サークルやまびこ 乾紀子)



熊本県:【全国の手話サークル連絡協議会と Zoom ウェビナーによる情報懇談会を開催】

九手連理事会の中で何度かご紹介しているところですが、令和2年2月からグループ LINE による東京都サ連、福島県手連、千葉県サ連、そして熊本県わかぎで「情報交換」を始めました。その後、コロナ禍での手話サークルの様子をお互い情報交換するうちに、令和3年10月からは「全国の手話サークル連絡協議会」とのグループ LINE の開設となりました。さらに、Zoom による情報交換会をこれまで延べ 7 回開催してきましたが、先日、令和 7 年2月1日(土)の第 8 回の情報交換会では、全国を Zoom ウェビナーで結んだ情報懇談会を開催しました。

昨年末、ソロプチミスト日本財団から「社会ボランティア表彰」を受賞した熊本県「人吉・球磨わかぎ」、北海道「石狩ひまわり手輪の会」様の地域に根ざした活動報告のほか、群馬大学の金澤教授による「手話サークルの今後の展望について」と題したミニ講話に、全国から百八十名の参加がありました。

運営ホストは熊本、司会進行は東京都、パネリストは熊本、北海道、そして群馬。手話通訳者も東京都から遠隔で配置しました。ICTを駆使し全国をリモートで繋いで運営する新しい形でのセミナー開催となりました。



なお、この「全国手話サークル情報交換」のグループ LINE ですが、少しずつ情報交換の輪を拡げ、令和 7 年 3 月末現在、北海道、東北(福島)、関東(東京、千葉、神奈川)、北信越(新潟、石川、福井)、東海(岐阜、三重)、関西(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良)、中国(広島、山口、鳥取、島根)、四国(高知)、九州(佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島及び九手連)、そして宮城県の「みみサポみやぎ」と、北は北海道から、南は九州、鹿児島までの25都道府県に広がりを見せています。

共通の課題や、それぞれの成功体験を共有しながら、これからの取組に活かしていく予定です。将来的に、全国47都道府県への横の繋がりをどう展開していくかは課題です。

(熊本県わかぎ事務局長 森 保夫)



人吉・球磨わかぎ

「社会ボランティア表彰」おめでとうございます

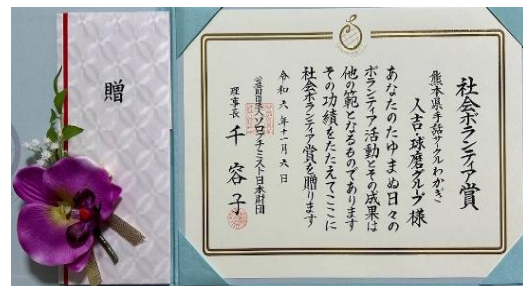
令和6年11月、嬉しいニュースが飛び込んできました。

熊本県手話サークル「わかぎ」人吉・球磨グループ(「人吉・球磨わかぎ」と北海道石狩市の手話サークル「石狩ひまわり手輪の会」が、ソロプチミスト日本財団から社会ボランティア表彰を受賞されたとのことです。

この賞は、ソロプチミスト支部より推薦を受けた全国 120 を超える団体個人から 25 組が選ばれ、その中に手話関係団体が 2 組も選ばれています。地域社会のニーズに適合した地域密着型のボランティア活動を長年に渡り継続的に行っていることが評価されたものです。誠にありがとうございました。人吉・球磨わかぎの受賞理由は、「人吉市手話言語の普及及び障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」制定に中心的な役割を果たしたことをはじめ、地域共生社会の推進のため、日頃から地元の人吉市及び人吉市社会福祉協議会と連携し積極的に活動するほか、災害時におけるボランティア活動、地域の小学校へのボランティアスクールの講師を勤める等、他のボランティア団体の模範となっていること。また、手話通訳活動のほか聴覚障害者との交流、耳の日事業等の聴覚障害に掛かる啓蒙活動など昭和 52 年に創設以来、長年に渡り精力的に活動を続けてきたことなどが受賞理由です。

人吉球磨わかぎの皆さま、受賞、誠にありがとうございます。

(熊本県わかぎ事務局長 森 保夫)





編集後記 これからも行事を通して「ろう者とともに」活動していきましょう！

九州手話サークル連絡協議会 発行責任者：池尻和吉

事務局：川上順子

広報担当 佐賀県：辻田亜紀